

## 1865 年 慶応元年 乙丑

5	5	行幸御進発につき助郷增高願い出る
6		諸事節約するよう御触れが出る
10		町井平四郎終身姓を賜わる

## 1866 年 慶応2年 丙寅

4	1	宿内未曾有の大火、焼失戸数 271 戸 大井川川越賃 3 割増仰せつけられ、賃銭は川会所の買上げ制度となり、歩合は川越人足 5 割 5 分、川会所 4 割 5 分となる
5		川原町(甚兵衛島)火災、13 戸焼失 不作のため米不足につき飴や餅を製してはならないと御触れが出る
11	7	宿内の百姓約 1,000 人大井神社境内へ集合し、当年の年貢米減租につき地主へ願い出を協議した
12		幕府への入用金 3 割増触れられる 酒造 3 分の 2 を減じ 3 分の 1 とするよう触れ出された 質屋の利子が定められ触れ出された

## 1867 年 慶応3年 丁卯

5	5	大井川川越賃金改正し、最後の川越賃金高札掲示
---	---	------------------------

## 1868 年 慶応4年 = 明治元年 戊辰

1	13	横井の普門庵炎上
	21	島田宿戸口調査、1,487 戸、8,692 人
2	20	勅使など多数島田宿を通過
	24	この日から 26 日までの間に、長州・薩州・尾州・肥前・肥後の各藩軍勢多数が江戸へ向って島田宿を通過
3	3	東征大総督熾仁親王大井川を渡り、3 月 5 日駿府に入る
4	7	討幕軍の後詰、江戸へ向って島田宿を通過
	28	この日から長雨となり 5 月 28 日まで大井川川止め。官軍は川崎港から船で沼津港へ回った
6	5	討幕軍約 1,000 名大井川へ仮橋を架けて渡り、江戸へ向う
	22	県令田上寛蔵大井川を越して島田へ宿る
7	4	宿方・地方・川方の三役印鑑持参で駿府城へ出向
	15	大井川洪水のためこの日から 1 週間川止めとなる
8	11	討幕の官軍、島田へ百余名分宿
9	2	地方筆頭役人神山三郎左衛門、島田役所へ着任
	23	天皇御東行について 70 歳以上の孝子・義僕・節婦等の届出方を示達
10	4	天皇御東行、村松九郎次宅で御小憩
11	2	近隣で強悪犯罪頻発につき、町民へ島田役所から注意を厳達
12	13	御陣屋へ治安取締屯所を設けた
	13	天皇還幸、大井川を仮橋で渡御
	24	宿役人の総替を行う

## 1869年 明治2年 己巳

2	1	桑原清右衛門(号南田、歌号政緯)氏歿す、76歳 民選議員戸塚左近衛門、公議所へ大井川の架橋建議
3	21	天皇御東幸、本陣村松九郎次宅で御小憩
7		徳川の臣中條金之助景昭、大草多喜次郎高重以下二百五十余名帰農し、第1陣として谷口牧野原へ移住、新番組と称した
9		御陣屋跡へ県支庁設置、10万石支配所となる。後郡政役所次いで郡方と云う。太政官発行の金札が不評判で一般通用の正金が隠匿され小銭が拂底する。各宿村では各宿村限りの米札を発行した
12	20	元上野彰義隊十八番隊長であった大谷内龍五郎孝子のために岡田医王寺で自刃
	23	組合商法所規則制度触れだされる この年村上孫十郎島田御役所から35カ村総代役を仰つけられた

## 1870年 明治3年 庚午

2	28	島田郡政役所を郡方と改める
3	3	島田宿地先大井川堤防の全面的改修工事に着手
4	13	静岡藩主徳川亀之助、谷口原の中條金之助宅を訪れ、大井川堤防を視察の後、島田郡方へ立寄り帰藩 静岡藩水利方松岡萬が向谷に通船役所を設置し、川根方面山村へ通船を命じた
5	2	島田宿の平松円吉・安藤長左衛門、金谷宿の永井久五郎等3人は合図り、大井川通船の許可を得て営業開始
	5	水戸脱藩の浪士今村喜左衛門孝本は大井川での通船業を目論み、天竜川で川船を買い求め、川尻から曳航し伊太笹ヶ久保へ到着。神座から上流へ通船を開始
4		民部省から大井川の渡渉は今後渡船・架橋等便宜の方法によるべしと示達された
5	20	大井川下流の回越を嚴重取締られたいと、島田役人から藩庁へ願いでた。これが最後の願出だった 宮小路で貸荷事業が営業を開始
7	3	島田駅志その他の著者置塩絢齋氏歿、28歳
9	28	大名最後の川越があった。賃銭1人当り400文 渡船、通船の一切を川越人足に任命されたいと金谷側から願い出る 大井川渡船造立見込書が県庁から到着 六合地内栃山大火、14戸焼失
10		本陣、脇本陣が廃止された
12	22	船木八幡神社本殿改築
	22	川越人足の生活状態を上・中・下の3段階に分けて島田役所へ差出す
	24	屯所の目明しを捕亡吏と改めた

## 1871年 明治4年 辛未

1		問屋場跡に設置された書状・切手売捌所が島田郵便取扱所と改称。東京大阪間毎日1回信書遞送開始
4	1	島田金谷間渡船賃が許可された

	2	川越人足へ失業転業資金として、下級 1 人 10 両、中上級 1 人 7 両宛を 10 回に分けて支給されることになった
	7	島田金谷間大井川渡船始まる
	9	庄屋・名主・年寄の制度が廃止され、戸長制となる。戸長杉浦竜八郎、副戸長秋野平八・塚本孫蔵・桑原穂三郎
	28	金谷町仲田源蔵等大井川渡船船方手代を命ぜられる
5	1	大井川渡船賃が太政官によって定められ、駅逓司から通達、1 人 124 文宿役人を改められた
		栃山橋と和田港間の栃山川へ 10 石積の通船が営業を開始した
7	4	島田へ県支所を設置、同年中廃止
11		置塩藤四郎(怡堂)氏歿、54 歳
		島田方川越人足、東光寺村・伊太村などで開墾に着手

### 1872 年 明治 5 年 壬申

1		行政区画改正。駿河国を 81 区に分ける。61 区野田、落合、尾川、伊太、千葉山、相賀、神座、鵜網、伊久美。80 区阿知ヶ谷、岸、東光寺、大草、庄九郎新田、御請新田、道悦島。81 区島田宿
2		島田大井神社郷社に列せらる 僧侶の托鉢を厳禁した
3	27	農家の不正製茶を禁止した
4		島田宿の貸座敷業が営業開始
5		結髪所を撤髪所と改称、当時宿内に 4 軒 廢刀令が公布された 河川堤防へ茶桑栽培を禁じた
6	3	茶製造人組合結成、会員 20 名
	22	下旬からウンカ大発生、被害甚大
8	3	国民皆学を主旨とする学制が發布された
	15	下手組(御仮屋、元島田、下島)住民白岩寺裏山開墾許可方願出る
11	25	太陰暦を廃止し太陽暦に改める。12 月 10 日を明治 6 年 1 月 1 日と定めた 寺子屋があった大柳(初倉)海蔵庵へ小学校が開設された

### 1873 年 明治 6 年 癸酉

3		誠貫舎、栄昌舎が六合地区へ設置された
4	1	全国の飛脚業者が廃止。郵便事業を政府の事業とし郵便料金を統一。葉書は 1 銭、封書 2 銭
	1	宿内で人力車の営業が開始された
6	10	種月院(初倉)へ初倉学校設置。分校が湯日養勝寺、南原養徳寺、大柳海蔵庵へ設けられた
	22	大小区制実施(島田小区長天野久平)第 3 小区伊久美村、第 9 小区道悦島、岸、阿知ヶ谷、細島、東光寺の各村。第 10 小区島田宿、第 11 区相賀、神座、伊太、鵜網、落合、大草、野田、尾川、千葉山の各村 捕亡吏が羅卒と改められた 落合に一貫舎創設、千葉に分校が設けられた

		谷口原開墾地で、2番茶時に初めてお茶を摘み、主君徳川公へ献上した
7	2	地租改正の勅語降下、米納が金納と変り、地券発行
9	6	柳町の郡方役所跡へ島田郷学校設置開校
11	1	小川村向坂弥平治と金谷宿仲田源蔵の2人が協力し、大井川への仮架橋が許可された。橋賃1人8厘
		初倉学校大柳分校と南原分校を廃し、大徳寺へ井口分校設置
	28	皇居炎上で各家庭へ献金するよう示達された
12	27	幸町(寺西)から出火し、大津小路まで125戸全焼
		この年徴兵令最初の徴募が行われ、島田宿からの徴募は1人

## 1874年 明治7年 甲戌

1		六合地域道悦島誠貫舎、細島拈道舎、阿知ヶ谷栄昌舎(東阿学校)の学舎を統合した
3		野田の竜雲寺に成徳舎創立開校
4	6	島田金谷間の大井川へ最初の板橋が竣工した
	13	川原町の川会所跡へ聖川舎ができた
	20	林入寺に林幽舎ができた
6		伊太に堅成舎、相賀に成育舎、伊久美小川に樂山舎が創設された
	10	大井川の洪水で神座被害を受ける
7		八木泰吉・増野弥三七等神座開墾着手
8	19	向坂弥平治・仲田源蔵等大井川の川幅調査をし本格的な架橋許可方申請書を提出
10	2	島田宿八木泰吉、静岡県参事から蚕種製造人世話役に任命される
		この年、六合煎餅屋大火、7戸焼失

## 1875年 明治8年 乙亥

1		五丁目問屋場跡の郵便取扱所が三丁目へ新築移転し、島田郵便局と改称された
2	5	千葉山日吉神社が大津大長の郷社に列せられた
		道悦島八幡神社、東光寺日吉神社、岸浅間神社が村社となる
3	7	羅卒が巡査と改められた
		島田郷学校から出火し全焼、以後隣接の快林寺本堂を教場とした
6		藤枝警察署島田警察分署が三丁目北側へ設置された
10	10	大井川洪水。開墾を始めたばかりの神座で潰滅的被害を受けた
	15	島田宿大井神社の大祭が新暦の10月13日・14・15の3日間に改められ執り行われた
		牧野原新番組開墾方は、政府から家禄奉還金として下付けられた金子を基金として、金融業苟美館を谷口原に創設し、業務を開始した
12	17	向坂弥平治、仲田源蔵等から許可申請中の大井川本橋架設が許可された
		上河原新田と北河原新田が合併して中河村となった
		この年初めて島田宿へ郵便馬車が来た
		島田町へ私設消舛組消防組が結成された

## 1876年 明治9年 丙子

2		県会議員選挙、細島の町井平四郎当選
3	3	大井川の仮橋完成開通(島田金谷間) 大津落合で火災、5戸全焼
4	1	宿内の区名改正。上村は扇町、寺西は幸町、白髭村は高砂と呼ぶように地名が変わった 上湯日と下湯日が合併して湯日村となった。初倉・谷口・沼伏・色尾が合併して坂本村、井口・南原・岡田が合併して船木村、大柳新田のみはそのままでおき六合の庄九郎新田は岸村へ合併して地名が消えた
7	9	歌人桑原ため(物外、霊秀)氏歿す、92歳
8	21	浜松県が廃止され静岡県へ統合、御請新田志太郡へ編入された
9	16	大井川洪水し神座の開墾地、向谷川原町地先など被害を受ける
	16	栃山川氾濫して沿川各村被害多大
12		八木昇県会議員に当選

## 1877年 明治10年 丁丑

3		聖川舎・林幽舎を島田郷舎に統合して島田学校と改称
4	27	江戸城内から久能山へ移されていた東照宮権現社を谷口原へ遷座し付近を権現原と云うようになった
9		谷口御請新田間の大井川へ民間経営による無許可の仮橋ができた 静岡新燧社で大井川材により製造のマッチが清国上海へ輸出されるようになった
10		島田学校向谷出張所を向谷に創設
11		御請新田地先の大井川堤防へ水門を新設して新川開削が始められた この年2月西南戦争が勃発して戦死者島田1、六合2、初倉1。戦功者島田1、伊久美1

## 1878年 明治11年 戊寅

2	6	区長及び戸長を公選するようになった 森定四郎県会議員に当選
3		牧野原谷口原など開墾の新番組は茶園造成のため内務省へ費金4万円の御貸下方を願い出た
22		郡区町村編成法が実施されて行政区画が明らかにされた 島田金谷間大井川仮架橋中央200間の本橋架設許可方を県庁へ願い出る
8	4	明治8年3月全焼した島田学校の復興新設校舎竣工 牧野原開墾方では苟美館が運営不能となり解散した
10	8	横井地先と谷口原地獄沢間の大井川へ農用一途の仮架橋許可方が提出された 向坂弥平治・仲田源蔵等は島田金谷間へ全面本橋架設のため資金2万円と官林払下方を願い出る
11	2	天皇陛下御東幸、秋野邸で御小憩御昼餐を召さる
	4	天皇陛下、牧野原開墾の中條景昭と大草高重を静岡行在所に召されて拝謁仰せ付けられ御嘉賞のうえ金1,000両を御下賜
12	5	横井原坪と湯日地獄沢間大井川農用仮架橋架設許可される 大井川仮橋架設を新番組が承諾

		幕末京都見廻り組隊員として活躍した今井信郎為忠は色尾村へ来任した
--	--	----------------------------------

### 1879年 明治12年 己卯

1	13	地獄沢原坪間大井川へ農用架橋竣工し蓬萊橋と命名、渡橋賃片道5厘渡船業者と協力して開橋
3	12	大小区制が廃止されて郡制となり志太益津郡が出来た
	27	駿遠国境を大井川の中央と決定し旧来の向榛原全村が駿河国志太益津郡へ編入された 官選戸長制度となり、戸長役場が設置された
8	22	千葉山の開山杉などの老杉を霊木として伐採を禁止保護することとなった
10	13	船木・大柳新田・中河・坂本・湯日の5カ村合併して第七組合村を結成した

### 1880年 明治13年 庚辰

1	13	島田学校稲荷島出張所が設置された 鈴木久一郎桑原穂三郎の両名は協力して、政府が輸入した二千錘紡織機械の拝借方を内務卿に宛て提出
4	8	区町村会法が発布施行された 刑法治罪法が実施されて、町村内の治安取締が厳重になった 大井川の治水費が地方税と関係町村の負担となる 内務卿通行で大井川橋補強
7		日光東照宮の保存費寄付方を牧野原の帰農武士へ呼びかけた
10	13	日之出町に火災発生、罹災者が多数出た

### 1881年 明治14年 辛巳

1		六合地区では従来の学舎を統一して六合尋常小学校と改称した
4		鈴木久一郎は島田紡績所を創業した
5	25	教育令に基いて学区が定められた。34区細島御請、35区道悦島岸、36区東光寺阿知ヶ谷、37区島田、38区落合大草尾川千葉、39区野田、40区伊太、41区相賀、42区神座、鶴網、51区伊久美
8	1	伊久美物産会社設立免許
10	18	島田町内に火災数ヶ所発生

### 1882年 明治15年 壬午

2	8	向坂弥平治・仲田源蔵等は島田金谷間大井川へ全架橋増設許可方を申請した
3		広住久道県会議員に当選
7	12	尾川村と野田村間の畑株場山争解決20日に契約書を取交した
9	1	島田金谷間の大井川へ架けた木橋を大井川橋と正式に命名した
10	1	大井川大洪水、金谷町の被害が大であった
11		野田、落合、尾川、大草の四カ村連合村会が結成された

### 1883年 明治16年 癸未

1	24	野田、落合、大草の3カ村は管理規則を制定して連合会を結成し共有林を管理することとなった
2		野田の成徳舎と落合の一貫舎を統合して野田学校と改称した

3	4	伊久美物産会社営業開始
	15	扇町へ劇場末広座竣工開場。木戸銭 1 人 5 銭、発起人鈴木久一郎、和田幸次郎。町内最初の芝居小屋
4	29	大井川橋全橋竣工祝賀式挙行。延長 720 間、幅 2 間、工費総額 1 万 4,715 円 28 銭 5 厘
5		島田町外 1 町 4 カ村連合公立島田病院を島田町四丁目へ設置、診療開始。初代院長伊沢簡策 天野廉県会議員に当選
7	9	郵便脚夫と逡送人大井川蓬萊橋無料となる
8	31	池田彦四郎等横井一番出と鎌塚間大井川へ農業用と非常用のため仮架橋許可方を願出て、10 月 18 日許可された
11	27	野田の龍雲寺炎上
	28	鈴木久一郎創業の島田紡績所竣工試運転の後操業開始。動力は水力
12		大草に山火事発生 30 町歩焼失

### 1884 年 明治 17 年 甲申

1	17	尾川村に大山火事発生山林 50 町歩焼失。原因通行人の煙草の捨殻 初倉色尾に遊水路完成
5		大津 5 カ村役場を落合へ設置 谷口新番組の 1 人内田忠正製茶仲買の営業を始める
6	12	榊原稽山氏(醍醐派道士で書家)歿す、65 歳
	30	連合町村役場の位置管轄区域が定められた。島田町(柳町)道悦島細島御請岸阿知ヶ谷東光寺 (道悦島)伊太相賀神座鶴網(相賀)落合野田尾川大草千葉(落合)伊久美身成笹間渡(滝沢)初倉 (坂本)
7	19	大暴風雨、付近一帯被害甚大
	24	相賀昌光寺炎上、廃寺となる
8		伊太相賀神座鶴網 4 カ村連合戸長役場を相賀へ建設
9	1	大井川架橋の功労者向坂弥平治氏歿、46 歳
10	1	伊久美郵便取扱所二俣へ設置。集配区域は伊久美・笹間・瀬戸谷
12		天野廉・広住久道県会議員当選

### 1885 年 明治 18 年 乙酉

2	3	俳人虎岩専蔵(竹香)氏歿、52 歳
3	5	墓地の埋葬取締細則が発布された 火葬場の設置が始められた 大草坤ノ沢奥から出火五十余町歩を焼失
4	21	入会山秣山問題で野田・落合・尾川・大草 4 カ村と島田町間で契約書の取交しを行った
10	16	伊久美郵便取扱所が郵便局となり貯金事務開始 大柳中河の両村は船木の学校から分離して初倉小学校となる
11		大井川蓬萊橋は費金返済のため渡橋賃徴収を請負制とし毎年 60 円宛を返済することにした 坂本村外 4 カ村で勸業委員会を設け委員を選出 細島の義農増田五郎右衛門の義人碑を藤枝町天神山麓へ建立した

12		六合地域で地籍の全面的調査
----	--	---------------

### 1886年 明治19年 丙戌

1		八木昇県会議員に当選
2		五丁目へ島田銀行創設資本金 10 万円、頭取秋野橋太郎
3	5	湯日小学校が建設された
	30	一貫舎千葉分校が 4 月 1 日から大津小学校千葉分校と改められた
4		大井川沿岸木材組合が許可され、初代総頭伊藤亨 坂本村外 4 カ村で勤労委員を置いた
5	25	伊久美郵便局が 3 等郵便局となった。初代局長西野立吉
8	20	島田町の小学校を尋常小学島田学校と改称した
	23	六合地区では誠貫舎を本校となし道悦島小学校、阿知ヶ谷の東阿学校を第一、細島の拡道舎を第二分教室とした 落合の民家から出火して地藏堂など類焼した
9	15	野田・落合・尾川・大草・千葉の 5 カ村が合併願いを提出した 森定四郎県会議員補欠当選
11		付近一帯の茶園へ苦瓜虫大発生し農家を苦しめた
12	30	古来栃山橋を挟んで島田宿と栃山付近の青少年が年中行事としていた石合戦(競り合)を厳禁した この年道悦島へ 12 カ村受持の巡査駐在所が設置された

### 1887年 明治20年 丁亥

2	12	大井川の治水費用がすべて地方税の負担となった
3	4	伊久美銀行創設。資本金 3 万 6,000 円、発起人西野平四郎
	14	島田町内の町角 5 カ所へ共同便所が設けられた。民間人が許可を得て建てた 島田町外 5 カ村米穀商組合が結成された
4	4	初倉坂本へ巡査駐在所が建てられた
9	30	大津地区尾川入会秣山について尾川村と島田町間が約定の取交しを行った
10	31	牧野原開墾新番組の大草高重・山名時富・小嶋勝直は東京代々木の徳川邸で開催した天覧流鏝馬(やぶさめ)へ射手として出場した
12	28	稲荷島と向谷の小学校出張所を分教場に改めた 祇園町山本長吉が町内で丸鋸を据付け水力によって製函業を始めた

### 1888年 明治21年 戊子

4	1	六合地区で、小学校の第 1・第 2 分校を閉鎖した
11		島田町へ私設島田消防組が結成された。4 番町制で 1 組 50 人、総員 200 人、組長が置かれた 新しく出来た島田停車場と三丁目の間へ新道が竣工。停車場小路と命名された 扇町康泰寺に置いてあった島田登記所を七丁目南裏へ新築移転し、静岡治安裁判所島田出張所と改称した

## 1889年 明治22年 己丑

2	26	各町村の区域、町村名、役場の所在地が定められた 神座と神尾間大井川へ許可を得た賃取橋が架けられた
3		憲法発布と共に初倉第七組合は初倉村と称することになった 町村制施行と同時に島田宿は島田町と改称された
4	1	町村制施行
	16	東海道鉄道開通、島田停車場営業開始
5		各町村で初代町村長の選挙が行われた。当選者は次の者である。島田八木昇・大長石田武雄・伊久身内田荘一郎・初倉堀本頼一郎・六合町井平四郎・大津長谷川惣四郎
9	13	高等小学校島田分校設置が認可され、10月22日快林寺本堂を借受けて仮教場となし授業を開始した
12		町村制施行後最初の戸口調査を行った。その結果は次の通りであった。戸数1,830戸、人口9,407人 この年米作稀れな不作だった 相川村と吉田村間大井川へ国富橋が架けられたのは11月である

## 1890年 明治23年 庚寅

1	10	尋常小学島田学校を島田尋常小学校と改称。向谷稻荷島の教場を第一・鶴ヶ谷教場を第二分教場とした
2	2	大津村では5つの大字へ1名宛の常設委員を置くことになった
3		島田町外3カ村漁業組合を結成
4	16	稀れな地震があったが幸い被害は皆無であった 大津村では区長の前身である常設委員を各字へ置いた
7		島田町へ尚兵会が結成された
8	21	大暴風、農作物の被害甚大 島田紡績所では県下の先端を切って水力により発電。工場内や鈴木久一郎の住宅内外へ点灯した 野田龍雲寺罹災後の本堂復興落慶 島田紡績所でスコットランドから新式精紡機1,704錠を買い入れて新工場を増設した

## 1891年 明治24年 辛卯

2		茶業の先覚者伊久身村小川坂本藤吉の頌徳碑が静岡市浅間神社の境内へ茶業関係者の発起で建立された
3	1	大井川通船組合の設立が許可され月末30日に発会式を挙行した 向谷大藪の開発が始められ其所へ川船の運送社が出来た
6	25	弓の名人岡本勘助氏歿す、73歳
7	29	鬼秀快とアダ名された囲碁5段二宮快蔵氏歿す、65歳
10	28	大地震(濃尾)、付近各所で道路や田畑へ亀裂が生じたが被害は皆無
11	1	谷口原へ居住していた伊佐新次郎岑満氏が歿す、83歳
	23	五丁目南裏へ新築中の島田尋常小学校々舎が竣工した

		大井川蓬萊橋は旧来の儘であったが池田彦四郎等によって全橋架替完成。全長 540 間、幅 1 間半の木橋
--	--	---

### 1892 年 明治 25 年 壬辰

2		島田町内へ天然痘発生流行 広住久道衆議院議員当選 八木昇県会議員当選
3	25	湯日分校が独立した
4	10	牧野原開墾の主柱大草多喜次郎高重氏歿す、58 歳
	11	六合村農会設立許可される
	26	島田尋常小学校が島田尋常高等小学校と改称 大長村農会創立
5	1	島田尋常高等小学校向谷第一分教場独立して島田尋常小学校となる
6	15	俳人森定吉(清節)氏歿す、64 歳
	16	島田郵便局三丁目から六丁目へ移転 初倉尋常小学校へ高等科が設置され初倉尋常高等小学校となる
7	6	天理教山名大教会益津支部教会島田出張所が設置された 大津尾川へ 1 町歩の農用水溜池が築造された
10	17	島田尋常高等小学校、六合・伊太・神座・相賀各小学校へ御真影下賜
11	3	島田尋常小学校、大津尋常小学校へ御真影下賜 島田町農会発足
12	24	五丁目南側から出火、134 戸焼失 大草天徳寺の復興成り本堂落慶

### 1893 年 明治 26 年 癸巳

2	17	六合村栃山へ私設栃山消防組結成、組頭塚本熊次郎
3	31	伊久美郵便局廃局となり身成郵便局へ統合され、集配区域が伊久身全村と徳山村地名となる 大津小路長徳寺炎上
4	9	大長相賀へ山火事発生、山林六百余町歩を焼失 八木昇・森十兵衛・増田昌三等協力して横井へ町内最初の製材工場を建設。丸鋸 2 台、職工 8 人で操業を開始した
7	1	東海道金谷駅を設置 営業を開始 78 両月に亘り旱魃 46 日に及び大井川をはじめ中小河川空前の水枯れとなり、千葉山で雨乞の故事に因んで雨乞が行われた 島田町へ島田肥料会社が設立された。資本金 1 万円
8		大長村農会が創立された
9		扇町末広座で猛烈な反対を浴びながらキリスト教徒が島田町最初の伝道をなした 大井川洪水。神座で堤防を押し切られ新開地 8 町歩を流失
10	15	大井神社大祭。新調した神輿で御旅所へ渡御 八木昇等父子の努力で神座の開墾地 40 町歩完成。明治新田と命名

## 1894年 明治27年 甲午

2		私設島田消防組が公設となり初代組頭酒井友次郎。4部制で各部の定員60人
3	1	八木昇等が設置した横井の製材工場は町内最初の法人組織となり、大井製材合資会社と名付けた 衆議院議員選挙、広住久道当選
8	1	島田煙草会社設立、資本金1,000円 日清戦争勃発宣戦の詔勅降下。木材が戦時重要資材となり木材業界が非常な活況を呈するに至った。附近各町村の戦死者島田町15名、六合村4名、初倉村2名
10		島田駅通りへ運送会社出現、資本金7,000円 大井川第1類河川に編入さる

## 1895年 明治28年 乙未

1	23	私設栃山消防組解散。公設六合消防組結成。初代組頭塚本至作 栃山へ六合銀行創立、資本金6万円 大津村恤兵会結成
2	24	季節外れの暴風雨で、農作物や建築物の被害甚大
4		六合村農会が設立を認可された
6		道悦島塚本至作が製糸所を設置し操業開始。工員女子34人、男子4人 加藤友吉が水力による製材工場を原坪へ建設して事業開始
8	14	横井の島田紡績所が工員の失火で全焼した 増井新平が発起人となり六丁目へ劇場増井亭を建設して竣工開場 大津村は従来の入会山10分の2を島田町へ譲与し種々の契約を断つ

## 1896年 明治29年 丙申

1	18	牧野原開墾頭中條金之助氏歿、70歳。坂本種月院へ埋葬 北河豊次郎が、稲荷島地先大藪の先端へ北河製品所を建設し、事業開始
3		六合村農会が創設された
4	1	郡制が施行され、志太益津郡は廃止統合して志太郡となる 島田停車場と向谷間へ大池春吉が乗用馬車の営業開始。乗車定員6人、片道賃金2銭5厘。馭者立花兵吉
9	10	大暴雨、農作物建物などの被害甚大。大井川横井地先の堤防欠壊され田畑をはじめ加藤製材工場など家屋等多大の被害を蒙る。大井川東海道鉄道鉄橋破損、島田金谷間大井川橋大半流失
10	-	下旬から年末にかけて大倉組が大井川材の大量川狩をなし、新川栃山川へ流入、大洲村の工場地へ狩り込んだ
	26	大井川々狩取締規則が県令で発布された 島田町町並の区長連が連署して町長に対し、大井川築堤方法に関し建議書を提出した
11		神座神尾間大井川橋梁流落し渡船となった
12	1	静岡歩兵第34連隊が出来た

## 1897年 明治30年 丁酉

1		向谷の大井川沿へ平口与左衛門が資本金 2,000 円で島田木材合資会社を建設し事業を開始した 西駿銀行の前身である西駿委託株式会社が設立された
2	6	神座開発の恩人八木泰吉氏歿す、61 歳
3	11	島田郵便局で電信事務を開始。島田郵便電信局と改称 各町村で町村医を置くこととなった。島田町初代町医高橋忠徳 八木昇県会議員に当選
4	22	六合村外 4 カ村用水組合設立が許可された
	26	六合村青島村用水組合設立が許可された 大津村で衛生組合が結成
6		駒田好洋が六丁目の劇場増井亭で島田町最初の活動写真興行をなした
7	30	向谷へ貯木場が出来た。貸地料 1 坪 10 銭
9	26	稀な暴風雨、農作物の被害甚大。両陛下から救恤金下賜
11	22	鈴木久一郎、大井川上流上川根村奥泉で用地買収、小山発電所建設を計画した 大倉組が 2 回に亘り大掛な井川材川狩を行った

## 1898年 明治31年 戊戌

1	28	島田軌道株式会社設立、取締役社長天野肇、資本金 2 万 5,000 円 秋野橋太郎県会議員当選
3	11	衆議院議員選挙広住久道当選
4	1	島田町外 12 カ村連合大井川水利組合結成
	1	島田停車場と向谷間島田軌道株式会社軌道完成。8 日から営業開始。延長 1 哩 66 鎖、工費総額 1 万 3,545 円、動力人工
	13	各町村小学校へ学校医を置くことになった
6		志太銀行の志太貯蓄銀行設立営業開始 六合村衛生組合結成
8	7	八木昇の奔走で当島田町最初のオーケストラが島田小学校講堂で催された
	3	まれな暴風雨で、農作物や建物などに多大の被害 町内へ赤痢病が発生流行。防疫に苦心した
	12	衆議院議員選挙広住久道当選(議会解散のため)
12	31	大井川橋流落後許可申請をなしていた島田金谷間渡船が許可された 大長村では各字の衛生組合を統一して大長村衛生組合を結成した

## 1899年 明治32年 己亥

1	3	幸町北裏へ新設の島田尋常高等小学校々舎の新築工事に着手
2	13	島田町四丁目から出火、警察署など 103 戸全焼
3	22	細島町井雄一郎・船木三浦茂登次の両名谷口橋架設許可出願 神座神尾間へ渡船許可 新築中の大長村役場竣工
4	1	湯日小学校猪土居分離して金谷小学校へ併合

7	8	谷口橋架設許可されて直ちに工事に着手した
8	1	相川村上泉地先で堤防欠壊。農地八百数十町歩被災、被害甚大
9	26	秋野橋太郎県会議員当選 郡会議員選挙当選者は次の通り。鈴木久一郎、天野廉(島田町)町井平四郎(六合村)平尾金蔵(大津村)石田武雄(大長村)西野与吉(伊久身村)榛葉元三郎、小泉素一郎(初倉村)
10	17	大暴雨。農作物、建物の被害甚大 谷口橋架設完成

### 1900年 明治33年 庚子

1	30	幸町北裏へ新築中の島田尋常高等小学校校舎完成。新小路の校舎を男子部、新校舎を女子部と称することとなった
4	3	島田女子尋常高等小学校新校舎の竣工式を行い開校
	7	千葉山智満寺の本尊千手観音像が国宝に指定された
7	3	島田女子尋常高等小学校へ御真影が下賜された
9	28	大暴風雨。農作物、建物の被害甚大。両陛下救恤金御下賜
10		大津落合へ巡査駐在所設置
11		幸町快林寺改築落慶
12	7	扇町から出火し大津小路まで155戸焼失
	7	島田町火葬場が現在の場所(中溝町)へ設置許可さる 島田町七丁目から分岐する川崎道路が竣工 初倉村で隔離舎建設 島田町で伝染病院建設

### 1901年 明治34年 辛丑

3	10	坂本初倉郵便集配所が初倉郵便局となる
4	1	六合・大津両村の尋常小学校へ高等科を併設され何れも尋常高等小学校となる
	29	金光教島田小教会所が祇園町へ設置された 県道島田伊久身線が大津尾川入口迄着工
5	10	中川原へ建設中の伝染病院竣工。平屋建161坪、初代病院長伊沢簡策
7	1	向谷地先大井川へ新堤築設完成し向谷新水門を設け役場出張所を建設した。大井川の流水増減とこの新水門から貯木池へ流入する木材の数量を調査記録した 用水使用料(入津料)条例制定実施 大長村伊太で従来の水防組を消防組に改組した
	25	新税水車割賦課徴収許可される
11	20	県道島田伊久身線島田町地内完成
	25	町道扇町柳町線竣工
12		県道金谷初倉線着工

### 1902年 明治35年 壬寅

3		勝間田銀行島田支店が二丁目角へ設置されて営業開始
4	10	六丁目の劇場増井亭が増築されて竣工し開盛座と改称された 天野廉等は向谷地先大井川堤防添へ堰東製材工場を建設し、町内各製材工場へ魁けて帯鋸を据え付けた 神座慶雲寺本堂落慶 牧野原へ製茶株式会社設立
7	20	大井川大洪水。蓬萊橋・谷口橋等流失

### 1903年 明治36年 癸卯

1		初倉村青年会創立(5月、初倉村女子学友会創立) まれな降雪1尺5寸に及ぶ
4		初倉船木へ巡查駐在所設置
5	2	初倉村小学校出火中央教室焼失
10		郡会議員選挙、当選者は次の通り。森淑・鈴木久一郎＝途中退任・秋野橘太郎(島田町)塚本熊次郎(六合村)長谷川巖太郎(大津村)塚本重吉(大長村)西野与吉(伊久身村)三浦茂登次・森本利一郎(初倉村)
12	20	初倉村地内県道竣工完成

### 1904年 明治37年 甲辰

2	10	日露戦争勃発、宣戦詔勅降下
4	1	木材商同業組合従業者の就業時間等級制賃金決定実施 新規大井川木材商同業組合の設立が認可された。初代組合長伊藤亨、副組合長八木鉄蔵
5	2	島田紡績所の鈴木久一郎氏歿、60歳
6	1	伊太御料林の払下を許可さる
8	31	鶉網御料林の払下を許可さる この年木材事業は戦争景気に沸いた

### 1905年 明治38年 乙巳

10		加藤友吉、大長村神座へ水力による製材工場建設着手
	3	島田女子尋常高等小学校へ付属して幼稚園設置
12	20	大津村農会設立 この年日露戦争終結。戦病死者は島田町30名、六合村8名、大津村2名、大長村7名、伊久美村7名、初倉村16名

### 1906年 明治39年 丙午

1	10	加藤友吉神座の工場事業開始
2		初倉村へ来住していた今井信郎が4代目村長に就任した 六合村法改正により改めて農会の設立を許可された 未曾有の厳しい寒さ、降雪1尺5寸

5		初倉村で初めて牛馬耕の講習会を開催した
7	17	大井川洪水、向谷六番出一帯大破 この日大井川修堤の恩人桜井正蔵氏見廻中発病急死
8	30	日露役戦捷記念基本財産蓄積条例制定許可される
9	14	大井川上流地名へ東海紙料株式会社が発電所建設のため着工
	28	島田金谷間大井川渡船を法の改正により改めて営業許可方出願 六合村で在郷軍人団結成。委員長広住久道、団長塚本順蔵

### 1907年 明治40年 丁未

3	7	東光寺山林出火、十余町歩焼失
4	5	島田商工会結成。会長八木昇
6	10	大井川々狩連合会結成。会長天野廉、副会長加藤利八 茶園へ赤壁病大発生被害甚大
7	28	森勇市・鈴木久一郎牛首山へ発電所出願
8		大井川洪水。東海道鉄道大井川鉄橋橋脚大破され、11日間交通途絶となる
9		浜松歩兵第67連隊が出来たので管内所属替が行われた 元島田へ青年会が結成された
10		郡会議員選挙、当選者は次の通り。森淑・秋野雅太郎(島田町)塚本熊次郎(六合村)金沢喜一郎(大津村)横田川福次(大長村)石神次平・堀恵熊吉(伊久身村)三浦茂登次・滝国蔵(初倉村)
11	4	島田町消防組全員の服装が洋服となり、この服装で最初の大演習举行
12	11	東海紙料株式会社東京で創立総会開催資本金100万円、取締役社長大倉喜八郎
	6	向島字二軒屋で火災発生。島田町消防組はこの火災消火の功によって県下最初の金馬簾一条を授与さる
	26	島田郵便局へ電話が架設された。最初の加入者45名

### 1908年 明治41年 戊申

4		付近農村の茶園一帯へ白星病大発生被害甚大
5	21	小学校児童害虫駆除規程が定められた
	24	森淑県会議員補欠選挙に当選
8	1	大井神社県社に昇格
10	1	島田郵便局特設電話交換事務開始。加入者52名
11	1	島田町立幼稚園独立し役場前へ園舎を建設 相賀地内農地改良工事完成
12		組合立牧野原小学校設置 島田町外11カ村大井川水利組合結成

### 1909年 明治42年 己酉

1	3	宮小路から出火住家26戸非住家1棟全焼。原因失火 西駿委託株式会社が、西駿銀行と改称
2	10	島田町消防組が初めて蒸気ポンプ1台購入して、備え付けた

3	15	横井の製材工場から出火全焼
	29	祇園町の牛頭天王社が須田神社と改称
4	22	大長村在郷軍人分会結成 大津村立大津尋常小学校校舎改築
10	22	島田町屠場使用条例制定許可される 神座開墾事業完成、組合解散
	10	日之出・二丁目間へ道路新設開通
11	9	島田川原町旧大井川堤防添に町営屠殺場建設竣工 伊久身小学校へ御真影下賜
12	12	一丁目の西端北裏へ島田電灯株式会社創立。町内 2,200 軒が点灯された

### 1910 年 明治 43 年 庚戌

2	5	先覚者広住久道氏歿、59 歳 稀な降雪積雪八寸余 三丁目南裏へ寄席白梅館が出来た
3	20	向谷貯木場道路竣工
	21	向谷川原町間町道新設開通 小学校訓導増田雪の記恩碑が向谷龍泉院境内へ建てられた 伊久身青年会が結成された
4	11	大津大長両村へ法律改正による農会が出来た
	18	島田伊久身両町村へ法改正による農会が出来た
	24	六合南報徳社の設立が許可され小学校で結社式開催
5	21	大井川蓬萊橋と七丁目間新道開通
	24	大津村実業補習学校開校
	27	一丁目と宮小路間へ新道貫通し電灯小路と命名
7	5	東海紙料株式会社工場竣工操業を開始した
8	9	3 日間に亘る集中豪雨で付近の河川未曾有の大洪水。空前の被害、降雨量 770 ミリ
10		東海紙料株式会社地名発電所完成、送電開始 神座大井神社へ華表建立、開墾の由来記す
	31	第 1 回島田蔬菜品評会開催
11	3	帝国在郷軍人会島田分会創立 向谷青年会結成
	9	小学校基本財産蓄積条例制定が許可された
	10	帝国在郷軍人会大津村分会創立
	25	古来の左義長の行事廃止を決定し同 30 日大井神社で焼納式挙行

### 1911 年 明治 44 年 辛亥

1	30	大津村で常設委員会廃止決定
2	23	相賀耕地整理組合設立を許可さる
3	31	大津村で耕地整理組合を設立し許可されて全村一斉に工事着手

4	1	正覚寺の境内へ小学校訓導大久保縫蔵の碑建立 大津村で各字へ区長を置く 初倉村色尾へ忠魂碑建立 初倉村立実業補習学校開校
	20	六合村青年会結成会長塚本熊次郎 大長村青年会結成会長石田憲 付近町村の茶園へ白星病大発生し駆除に苦心する
6	29	大井川大洪水、蓬萊橋谷口橋共に流落し交通途絶する 宝田油田株式会社地獄沢で石油鉦の試掘を開始した
8		加藤商事合資会社創立 加藤友吉横井善太夫島でタービン式水力による製材工場建設事業開始、最大出力 85 馬力。原坪工場廃止
9	24	六合村帝国在郷軍人会分会結成
	26	森淑、県会議員当選 郡会議員選挙、当選者は次の通り。秋野雅太郎・酒井次郎三(島田町)塚本蠖三(六合村)金沢喜一郎(大津村)伊藤亨(大長村)西野与吉(伊久身村)三浦茂登次・滝国蔵・坂本美之作(初倉村)
10		各小学校で児童生徒に 1 坪農業を実施
12	31	島田町内の戸口調査。戸数 2,553 戸、人口 1 万 5,524 人 年末から町内へ腸チブス発生蔓延し、防疫に苦心翌年に及ぶ

**1912 年 明治 45 年(1 月 1 日～7 月 29 日) 壬子 ※7 月 30 日～ 大正元年**

2	11	島田町青年会結成
3	18	大津小路洞源寺境内へ篆刻家山本世吉(拝石)の碑建立
	21	修養団島田支部結成発会
	28	伊太耕地整理組合設置許可さる
	21	島田町青年会が小学校を会場として青年夜学会開講 神座へ村立実業補習学校を設置
4	7	大津村青年会結成。会長曾根忠治、会員 152 人名、直ちに夜学開始
6		大長村水防組合結成
	15	川原町関川庵へ吉三地蔵建立 島田停車場の構内拡大工事竣工 相賀地内耕地整理事業完成